

東西の知を操る異才 井筒俊彦

イスラーム教の聖典『コーラン』の岩波文庫版の翻訳者として知られる

井筒俊彦は、慶應義塾大学で学び、教員も務めた。

井筒はイスラーム研究のみならず、東洋思想・神秘主義哲学研究、

30以上の言語を使いこなす言語学者・語学の天才として不朽の業績を残している。

学問分野と言語を自由に往来しながら膨大な知識を操る知の巨人、井筒俊彦。その足跡をたどる。

学究としての運命を決めた 師・西脇順三郎との出会い

欧州で第一次世界大戦が勃発した1914年、井筒俊彦は東京市四谷区（現・新宿区）に生まれた。在家の禅修行者だった父の指導で、子どもの頃から禅に関する書籍を読み、座禅をして瞑想するなど禅思想に親しんだ。

その後、入学した青山学院中等部でキリスト教と出会い、幼少より培われた禅思想を覆すその教えに当初



1979年、エラノス会議にて ※

は激しい違和感を覚えながらもやがて関心が芽生える。詩人論を書く批評家でもあった井筒は、この頃から慶應義塾大学文学部教授だった西脇順三



三田の学生時代、大講堂前で撮影したもの。左端が井筒で、右から2人目が親友の池田彌三郎。池田は経済学部に入学したが井筒と共に文学部に移り、卒業後は義塾の教員となった。※

郎の作品を愛読していた。

1931年に慶應義塾大学予科に入学。当初は父に従って経済学部に進むが、文学への思いを捨てきれず文学部英文科に転じ、西脇に師事した。井筒は師との初めての出会いを「飄々と歩くその人自身の姿を、三

田山上に、はじめて見たとき、私の心は躍った」と語り、「西脇先生を生涯ただひとりの我が師と思っている」と述懐している。

卓越した語学力と知への情熱で 慶應義塾から世界に羽ばたく

大学卒業後の井筒は助手として西脇を支えた。卓越した語学力を認められて、西脇らの提唱で1942年に設立された語学研究所（のちに言語文化研究所）研究員、外国語学校主事に就任。イスラーム思想史やギリシア神秘哲学の研究に取り組みながら、文学部でロシア文学を、外国語学校ではギリシア語、ヘブライ語、アラビア語、ヒンドスターニー語など複数の語学を教えていた。

1954年には文学部教授に就任



現在も続く福澤賞・義塾賞の第1回授賞式の記念写真（1949年11月9日撮影）。井筒は『神秘哲学：ギリシアの部』で福澤賞を受賞した（前列右端）。（福澤研究センター提供）

フランス、カナダなどのイスラーム研究拠点を訪問。この時、縁ができたカナダ・マギル大学に1961年から客員教授として招聘された。1967年からは東西の哲学、

し、それまで西脇が担当していた「言語学概論」を受け持った。その斬新な講義内容は人気が高く、早く行かないと席がなくなってしまうことでも有名だった。当時受講生の一人だった文芸評論家の江藤淳は「これほど毎回のように知的昂奮を覚える授業はなかった」と講義の印象を語っている。後年、井筒は講義内容を英文の著作『言語と呪術』としてまとめている。

1959年、井筒は45歳にして初めて海外渡航した。ロッキーフエラー財団の奨学金を得て、2年間にわたってレバノン、エジプト、ドイツ、

宗教、芸術、科学を包含する学際的な会合「エラノス会議」に参加するようになる。各界を代表する人物が講演者として招聘されるこの会議で、井筒は東洋哲学や宗教に関する多くの講演を行った。

井筒俊彦のスピリットはいまも慶應義塾に息づいている

1969年、井筒は正式にマギル大学教授となり、慶應義塾大学教授を退任。マギル大学がイスラーム学研究所テヘラン支部を開設したことに伴い、イランの首都テヘランに移住した。王立アカデミー教授を経て、

1979年のイラン革命によって日本に帰国。井筒の著作はほとんど英文で書かれていたが、帰国後は日本語での著述活動に専念。1993年に自宅があった鎌倉で亡くなるまで『イスラーム文化―その根柢にあるもの』などの著書を残した。

井筒が鎌倉の家に残した旧蔵書コレクションは、現在、慶應義塾大学三田メディアセンターに移管されている。その数は和漢書と洋書合わせて約1万冊、アラビア語の資料は約3700冊を数え、その中にはイラ



井筒が晩年を過ごした北鎌倉の自邸書斎（1980年撮影）※

ン国外でめったに見ることができないイラン石版本90点など非常に貴重な資料も含まれている。

慶應義塾大学文学部創設125年の2015年、文学部は西脇順三郎と井筒俊彦の師弟の名を冠した研究奨励賞を設置した。このうち「井筒俊彦学術賞」は、広大な学問分野と言語フィールドで不朽の実績を残した井筒の名にふさわしく哲学、倫理学、歴史学、民族考古学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学に及ぶ幅広いフィールドの新進気鋭の研究者に授与され、井筒俊彦のスピリットを受け継ぐ21世紀の碩学の誕生を応援している。